

2012年5月10日



2012年3月期 決算のご説明

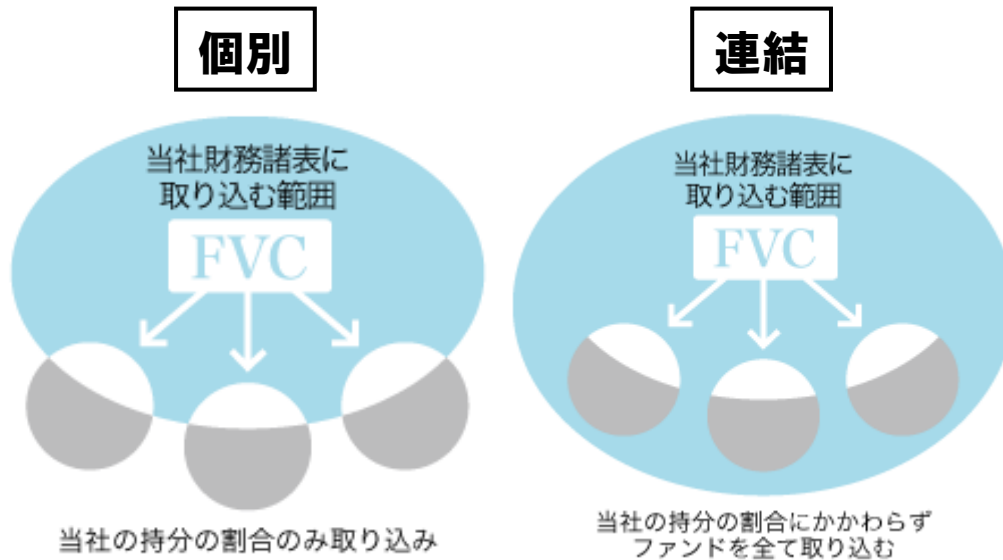
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(大証JASDAQスタンダード, 証券コード8462)

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

本資料の数値は、特に指定がない限りすべて2012年3月末現在のものです。

本資料における記載数値について

当社の経営成績及び財務状態をよりの確に表すため、本資料では、基本的に投資事業組合の**当社持分のみを連結した個別決算数値を記載**しております。



投資事業組合の運用総額に占める当社持分の割合18.6%

<連結決算の場合>

- 連結貸借対照表
 - ・自己資本比率が低下
- 連結損益計算書
 - ・営業投資有価証券にかかる損益が増幅
 - ・投資事業組合等管理収入が内部取引とみなされ、相殺消去(管理報酬等)

目次

- 1. 株式市場環境 … P.4
- 2. 2012年3月期決算説明 … P.7
- 3. 収益源獲得のための新たな試み … P.23
- 4. 2013年3月期の課題 … P.25

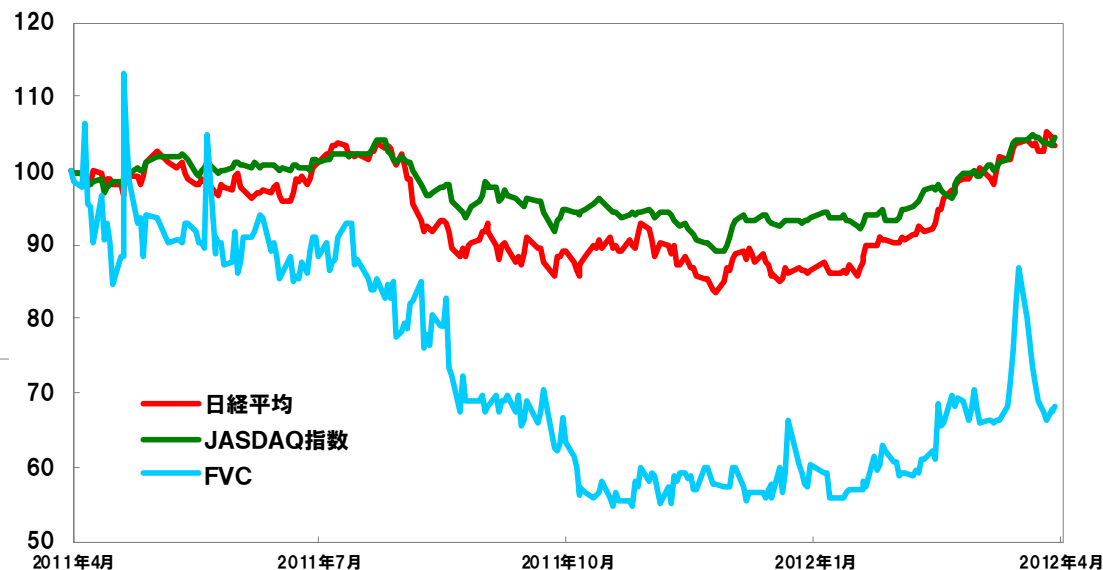
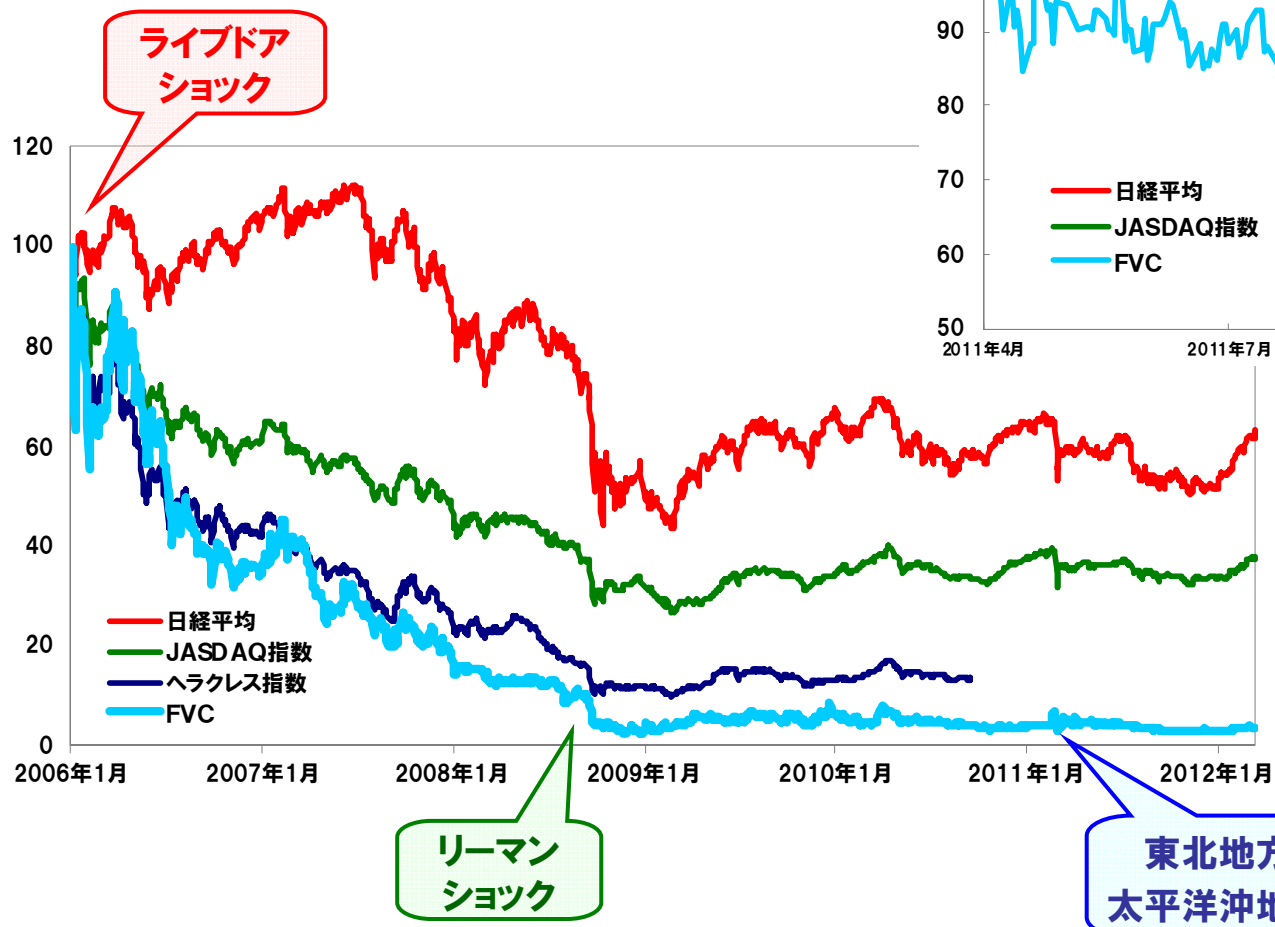
【参考】 会社概要



株式市場環境

1.1. 株式市場の状況

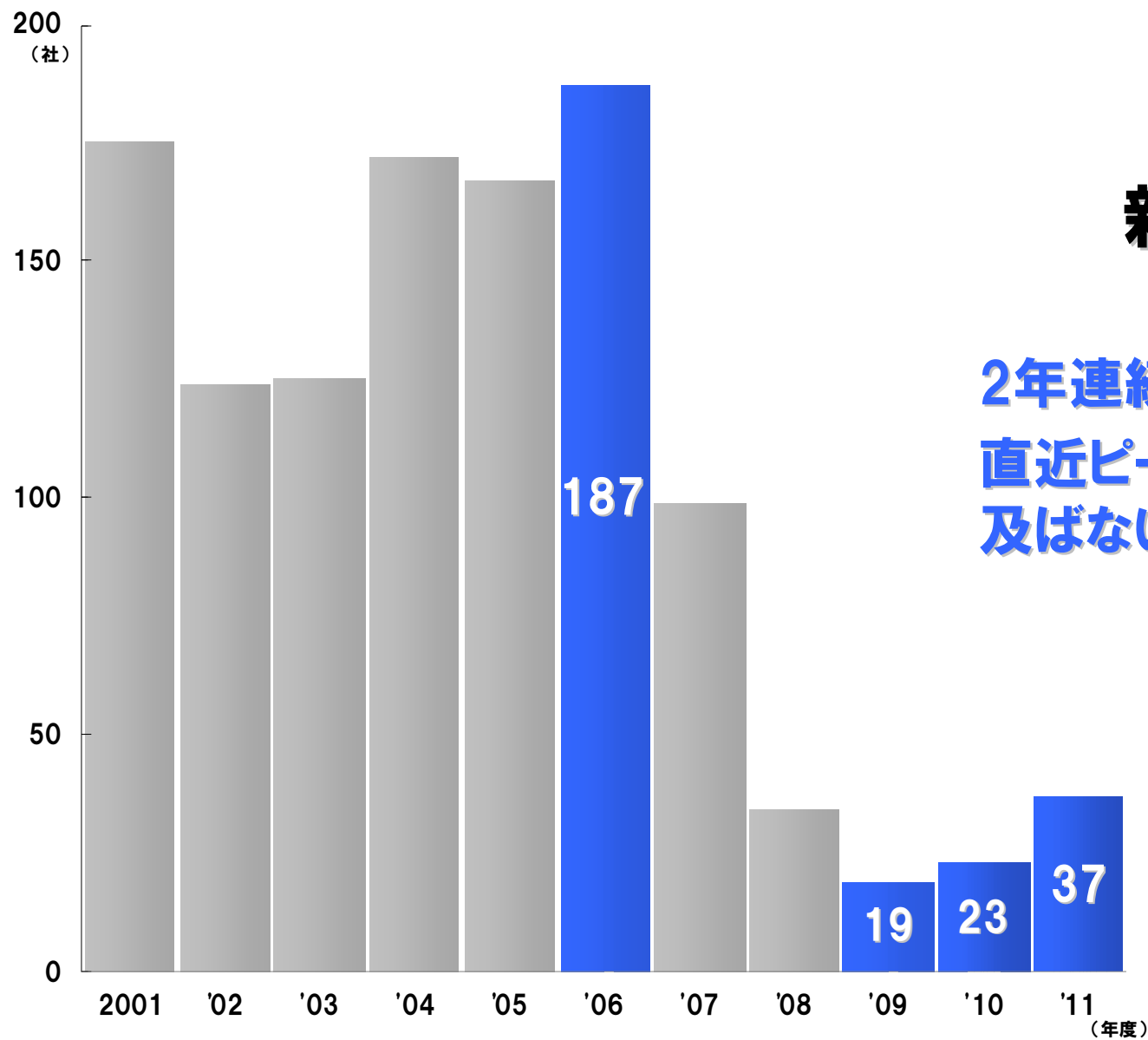
2011年後半に円高の影響を受け大きく下落したが、
2012年に入り、日経平均、JASDAQ指数ともに上昇
大きな流れでは、2006年以來の新興市場低迷はなお続く



(右上) 2011年4月1日を100とする指数
(左下) 2006年1月16日を100とする指数

※ ヘラクレス指数は新JASDAQ市場誕生に伴い
2010年10月8日を以って廃止されました。

1.2. 新規上場市場の状況



新規上場市場

2年連続前年度超えしたものの、
直近ピークの2006年度には遠く
及ばない水準



2012年3月期決算説明

2.1. 期首経営課題

1. 早期の黒字化

2011年3月期まで5期連続の赤字であり**早期の黒字化が急務**

2. 自己資本の充実

2011年3月期末の自己資本比率が6.2%であり**自己資本の充実が必要**

2.2. 決算概要

減収ながら前期比では**損益が改善**、特別利益計上により**6期ぶりに当期損益黒字化**
 当期損益の黒字化及び新株式の発行により前期比で**自己資本比率が改善**

単位:百万円	第12期 2010年3月期	第13期 2011年3月期	第14期 2012年3月期	対前期比
売上高	674	631	475	△155
営業損益	△517	△271	△194	+76
経常損益	△577	△307	△232	+75
当期損益	△599	△333	84	+418
純資産	408	101	316	+214
総資産	1,903	1,406	1,446	+39
自己資本比率	21.1%	6.2%	20.7%	+14.5

2.3. 特別利益の計上

特別利益

当社が運用する投資事業組合の他組合員持分を評価額以下の金額にて譲り受けたことにより、329百万円の特別利益を計上

※ 差額12百万円は主に税金、事務所移転費用(特別損失)

単位:百万円	第14期 2012年3月期	
売上高	475	
営業損益	△194	
経常損益	△232	
当期損益	84	+316
純資産	316	
総資産	1,446	
自己資本比率	20.7%	

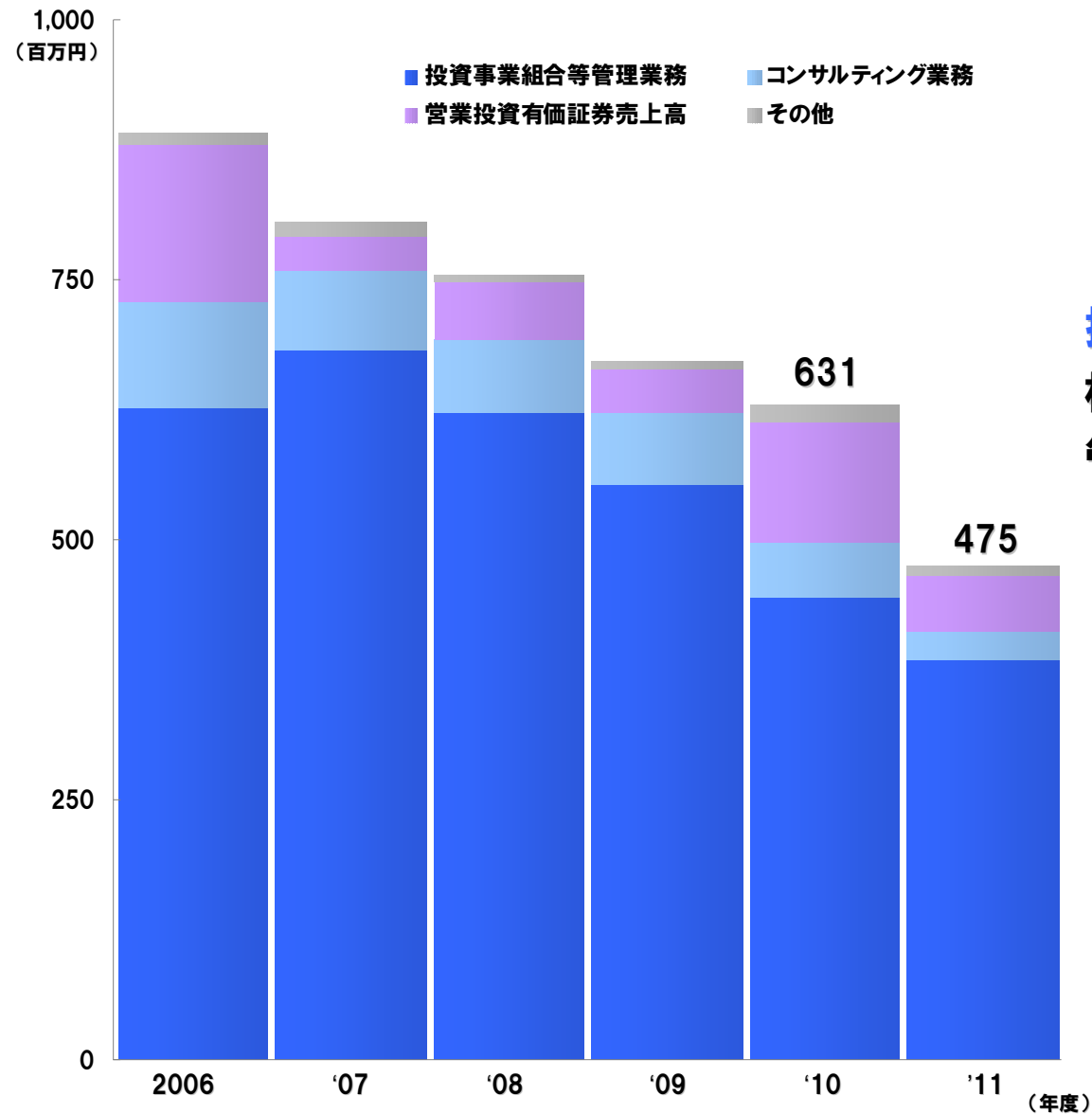
2.4. 自己資本比率の改善

自己資本比率

当期損益の黒字化及び2011年9月に実施した第三者割当増資（総額128百万円）により、自己資本比率が改善

第13期 2011年3月期	第14期 2012年3月期	単位:百万円
631	475	売上高
△271	△194	営業損益
△307	△232	経常損益
△333	84	当期損益
101	316	純資産
1,406	1,446	総資産
6.2%	20.7%	自己資本比率

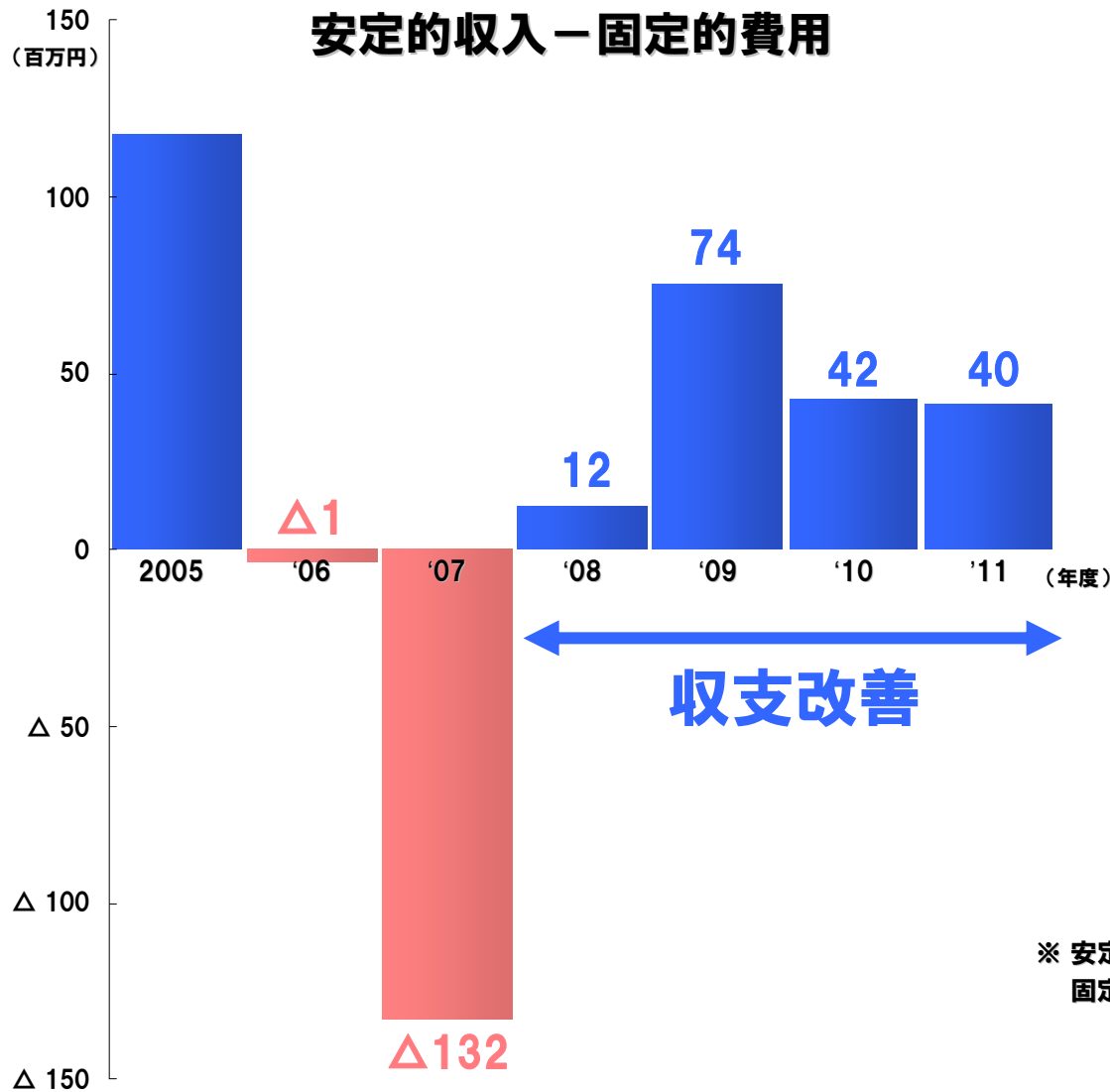
2.5. 売上高推移



売上高

投資事業組合管理業務収入の減少が影響
株式上場による有価証券売却があったものの
管理業務収入の減少分を補えず

2.6. 安定的収入と固定的費用のバランス



安定的収入と固定的費用

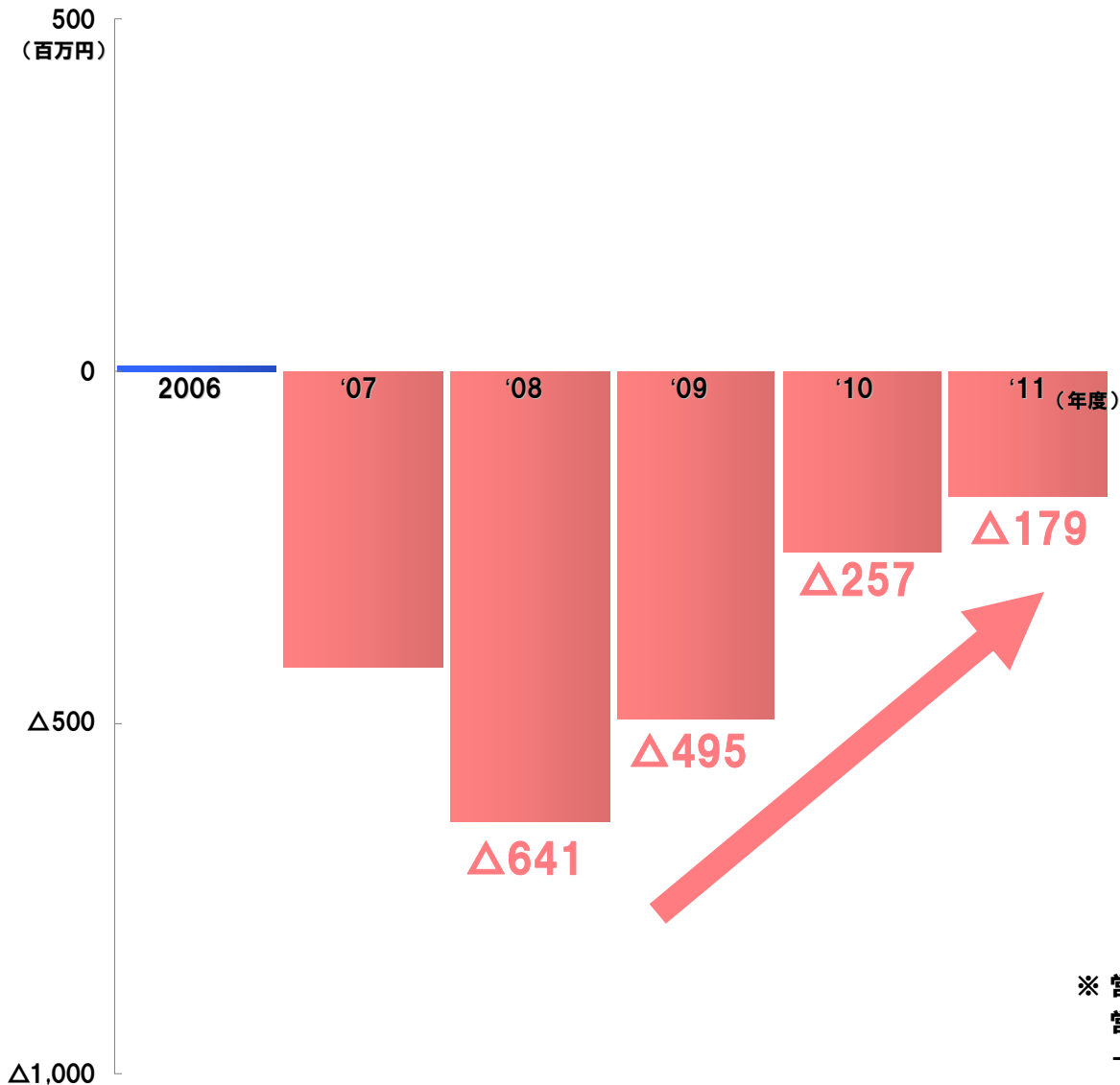
2006年度より安定的収入と固定的費用の
バランスが悪化



経費削減を進め、2008年度以降は
収支改善

※ 安定的収入＝投資事業組合等管理収入＋コンサルティング収入
 固定的費用＝販売費および一般管理費＋売上原価（営業部門における活動経費）

2.7. 営業投資有価証券にかかる損益(合計)



営業投資有価証券にかかる損益

引き続きマイナスが続いているもののマイナス幅は徐々に縮小

※ 営業投資有価証券にかかる損益＝
営業投資有価証券売却高－売却原価＋売却にかかる投資損失引当金戻入額
－減損等＋減損等にかかる投資損失引当金戻入額－投資損失引当金繰入額

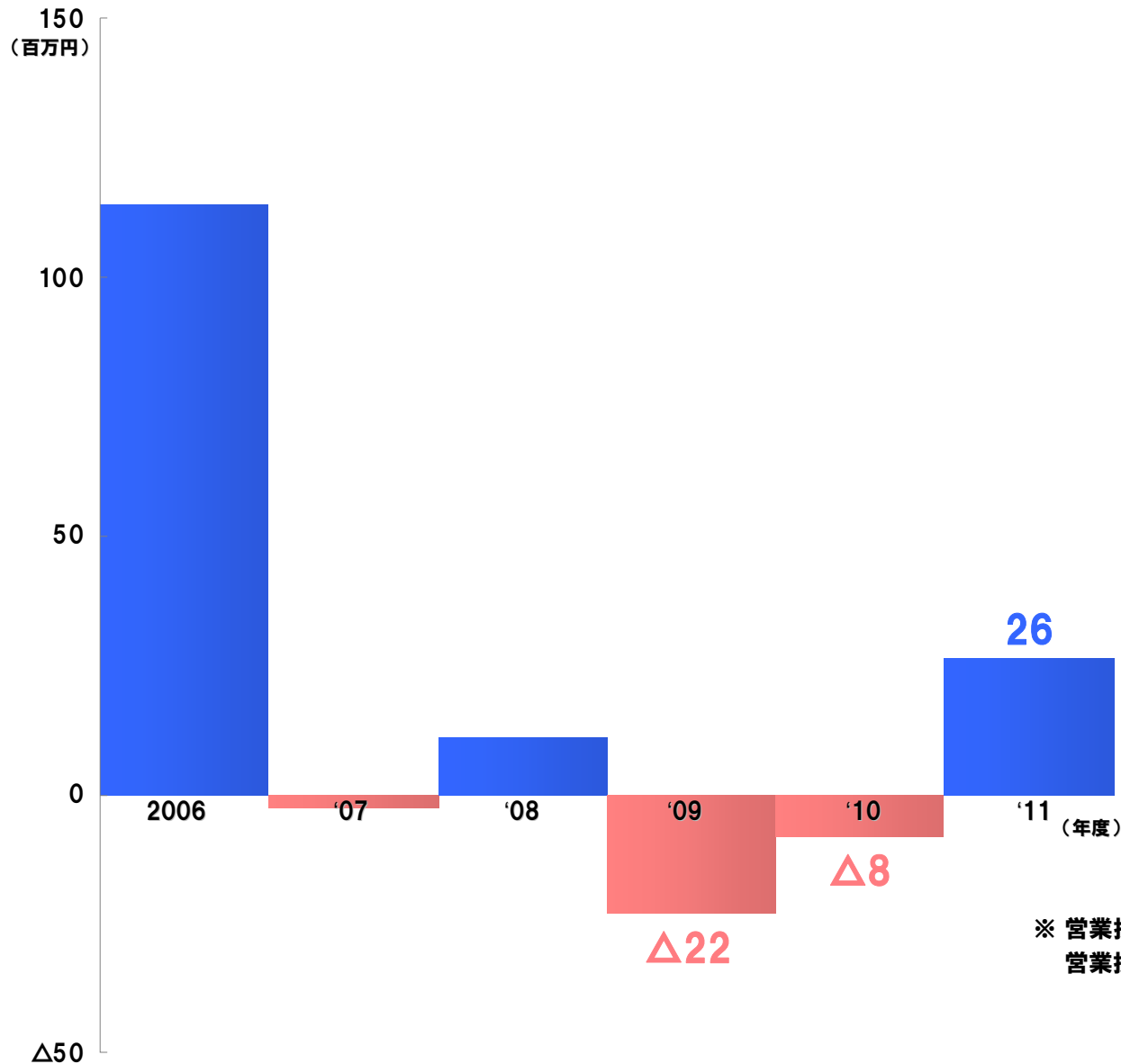
2.7. 営業投資有価証券にかかる損益について

営業投資有価証券にかかる損益＝

①売却にかかる損益＋

②減損等・投資損失引当金繰入にかかる損益

2.7. 営業投資有価証券にかかる損益(売却)

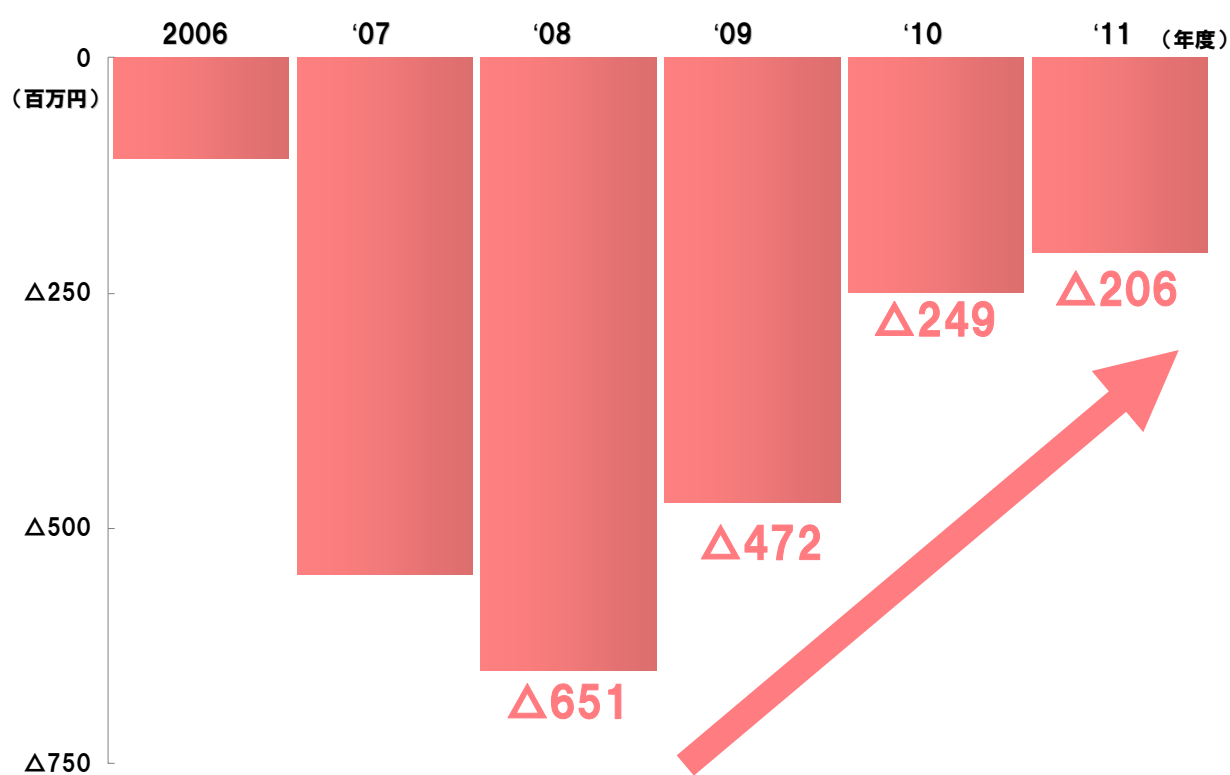


営業投資有価証券の 売却にかかる損益

売却にかかる損益は2年連続の
マイナスだったが2011年度は上場
による売却があったこともありプラス
に転じる

※ 営業投資有価証券の売却にかかる損益＝
営業投資有価証券売却高－売却原価＋売却にかかる投資損失引当金戻入額

2.7. 営業投資有価証券にかかる損益(減損等・引当金繰入)

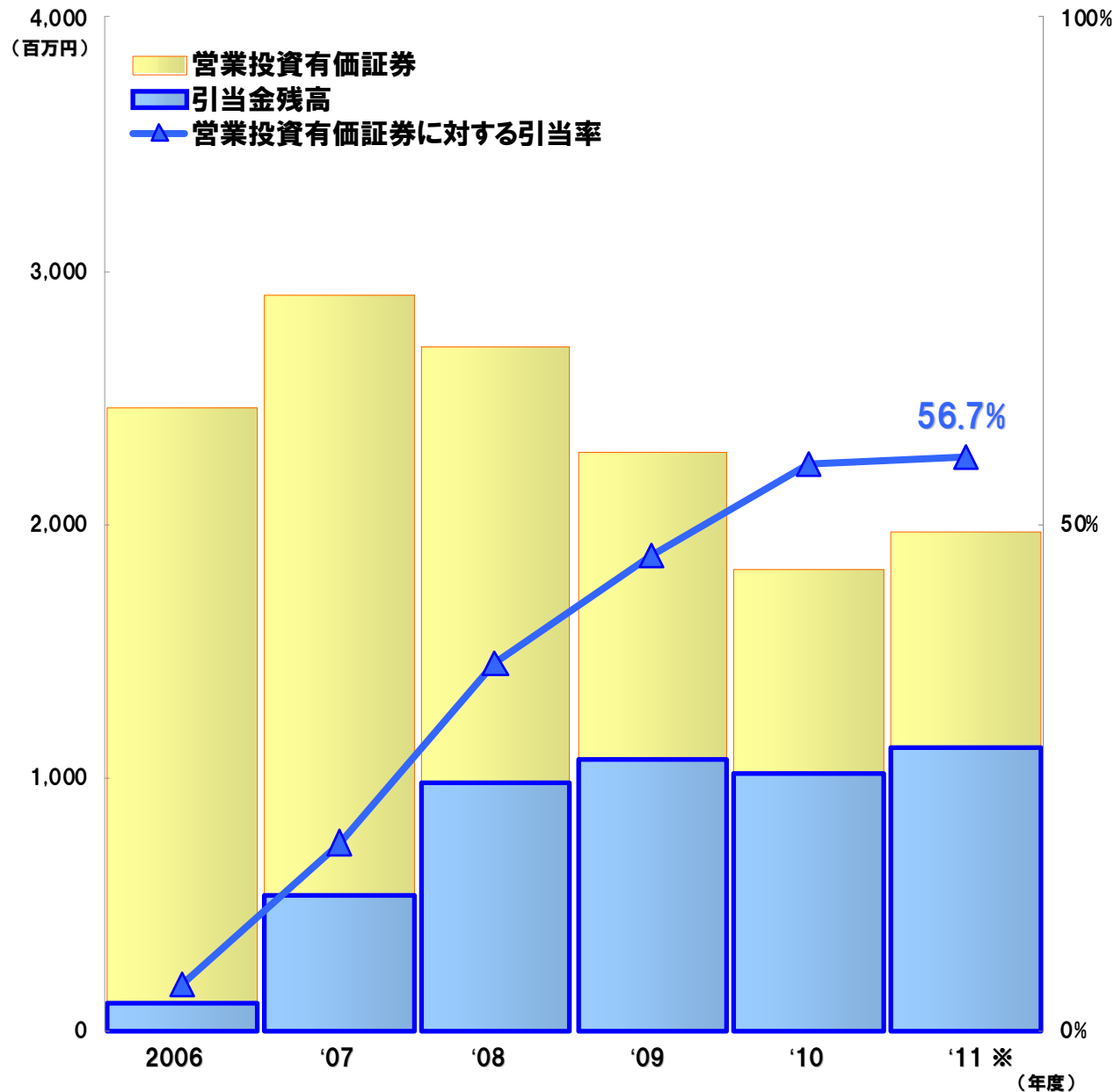


減損等・引当金繰入

2008年度をピークに
減少傾向

※ 営業投資有価証券の減損等・引当金繰入にかかる損益 =
- 減損等 + 減損等にかかる投資損失引当金戻入額 - 投資損失引当金繰入額

2.8. 営業投資有価証券と投資損失引当金

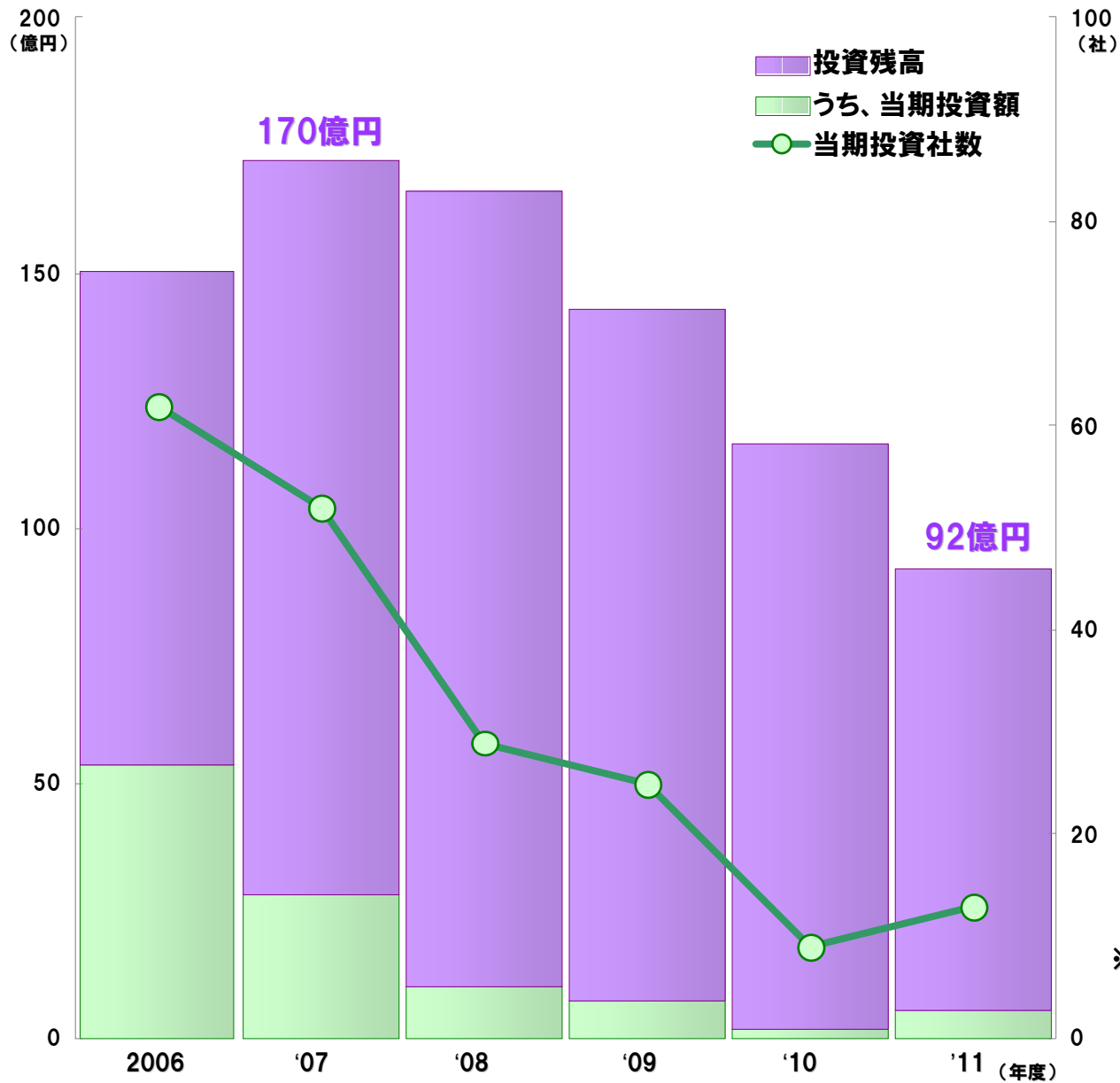


営業投資有価証券に対する引当率

上昇傾向にあった引当率に一服感

※ 2011年12月に当社が運営する投資事業組合の他組合員の出資持分を譲り受けたため、営業投資有価証券、引当金残高ともに増加しています

2.9. 投資活動



投資活動

売却活動の推進と
投資額の減少により、
2007年度をピークに
投資残高も約半分に
まで減少

※ 連結対象の投資事業組合すべてを含んだ数値を記載

2.10. 新規上場実績

新規上場実績

初値投資倍率は低かったものの、5期ぶりの**複数社上場**を達成

年度	2006	'07	'08	'09	'10	'11
当社上場実績	2	0	0	1	1	2
初値投資倍率	16.4	—	—	1.3	20.4	1.3
国内新規上場社数	187	99	34	19	23	37

2.10. 上場企業紹介①

株式会社 スリー・ディー・マトリックス

アーリー投資企業

上場日 : 2011年10月24日

上場市場 : JASDAQグロース

本社所在地 : 東京都千代田区

事業概要 : 自己組織化ペプチド技術を用いた医療製品の研究開発、製造及び販売

2005年設立の当社旗艦ファンドからの新規上場

投資時点
株価(※)

750円

⇒

売却株価

1,932円

売却時
投資倍率

2.6倍

※分割考慮後

当社運用組合持分については上場前の売出しにて株価1,932円で全株式を売却しています。
なお、初値は1,200円で初値投資倍率は1.6倍となっています。

2.10. 上場企業紹介②

ベルグアース株式会社

地域ファンド投資企業

上場日 : 2011年11月29日

上場市場 : JASDAQスタンダード

本社所在地 : 愛媛県宇和島市

事業概要 : 野菜の接ぎ木苗の生産販売, 農業資材等の仕入販売等

株式会社ピーエスシーに続き、えひめベンチャーファンドから
累計3社目の新規上場

投資時点
株価(※)

1,750円

⇒

期末終値
(3/30)

1,147円

期末終値
投資倍率

0.7倍

※分割考慮後

当社運用組合持分は2012年3月31日現在、株式を保有しているため、2012年3月末時点の株価を記載しています。なお、初値は780円で初値投資倍率は0.4倍となっています。



収益源獲得のための新たな試み

3. 収益獲得のための新たな試み

1. 株式会社カネカとの連携【東証1部上場の大手総合化学メーカー】

当社の筆頭株主。事業領域が幅広く、対外アライアンスに積極姿勢を有しており、投資先企業に対する技術面・営業面でのサポート充実を図る。

2. 株式会社コーポレート・アドバイザーズとの連携

幅広い顧客層に会計サービスを提供。ベンチャー企業への会計支援に強みを有する。コンサルティングメニューの共同開発により相互に収益力の強化を図る。

3. インキュベーション事業

2011年7月、京都にインキュベーション型シェアオフィス「share KARASUMA」が誕生。
2012年4月に増床、SOHO向けオフィス「share KARASUMA SOHO+」もオープン。
当社が本施設の運営を受託。





2013年3月期の課題

4. 2013年3月期の課題

成果を短期に回収する仕組みの構築

従来の投資育成のように役務提供の対価の回収に要する期間が長期に亘るものに依存するのではなく、**成果を短期に回収する仕組み**を構築することにより、より安定的な経営基盤を構築することを目指します。

- ① インキュベーション事業の拡充
- ② 会計支援サービスの提供

ベンチャーキャピタル事業の強化

成果を短期に回収する仕組みを構築する中で、既存の投資先企業に対し、会計支援はじめ新たな事業の枠組みを活用することで、**集中的支援**に努めます。

新規ファンドの設立

少額投資により起業を促進する**起業支援ファンド**

大手企業の技術・知財を企業外に転出し事業化を支援する**知財ファンド** 等

【参考】 会社概要

- 会社名 : フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 (FVC)
- 設立年月日 : 1998年9月11日
- 資本金 : 2,048百万円
- 発行済株式総数 : 61,259株
- 株式上場市場 : 大阪証券取引所 JASDAQ市場 (8462)
- 所在地 : 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659番地
烏丸中央ビル4階
- 従業員数 : 29名
- 事業内容 : 未上場企業投資業務、投資事業組合の企画・運営
コンサルティング業務など

新経営理念

「創発的革新」により
ベンチャー企業と自らの
成長と幸せを実現する